

生涯学習推進委員会資料

社会教育関係団体の 育成・支援のあり方について

令和2年1月17日（金）

生涯学習課 社会教育班

率直に感じる「地域」の課題

- 少子高齢化
- 人口減少
- 住民のつながりの希薄
- 後継者問題（自治会、ボランティア活動等）
- 地区における年齢層の違い
- 学校区単位でのつながりはあるが、横のつながりが少ない
- 行政サービス以外で市民ができることがわからない
- 学校区を利用した活動や利用がなかなかない
- 子どもも大人も忙しい
- 地域のサークルや団体の内容がよくわからない
- 子ども時代からの「生涯学習」の場がない
- 社会教育の大切さを実感できる場がない

率直に感じる「社会教育関係団体」や「サークル」の抱えている課題

- 新規加入者がいない
- サークル会員の高齢化
- サークル同士の交流（横のつながり）がない
- サークルに主体性がない（先生、講師主導）
- サークルの代表やリーダーが「社会教育」や「生涯学習」を理解しているか
- 地域での「社会教育関係団体」の役割は何か
- サークル内容のマンネリ化
- そもそもサークル活動している人に「社会教育」という意識がない
- 趣味の範囲でやっている人たちの意識改革の必要性
- サークルから社会教育関係団体という次のステップへのハードルの高さ

率直に感じる「市の生涯学習や社会教育」の課題

- 生涯学習計画が未整備
- 「生涯学習の全体像」が見えない
- 専門的職員の配置の必要性
- 学校区をつなぐをどのようにしていくのか
- 団体との意見交換会
- 資源の活用方法
- サークルと社会教育関係団体のすみ分け
- 社会教育関係団体へのケア
- 少しでも社会教育に関する内容を行っている団体へのケア
- 職場の縦割り、横割りの体制
- 市の行政情報の在り方（提供方法、SNSの活用）
- 言葉の難しさ（市と市民側の理解度の違い）

団体の面から考える「サポートの必要性」

- サークルが抱えている困りごとの把握
- サークルが求めている支援
- 団体が継続するために必要なこと
- 活動のオフアーの機会

市民の面から考える「社会教育関係団体へ望むもの」

- 広く開かれた活動
- 主体性を持った活動
- 地域づくりへ
- 参加者の家族、知人とのその時間の共有
- 「来年も同じように」「来年も同じものを」というものがあるが本当にそれで良いのか
- 無料でできるという魅力
- 情報提供の在り方（関心を持てるためには）
- すでにある組織（サークル等）にはいるにはハードルが高い
- 市やセンターで実施している講座に参加している参加者の活用
- 組織からの入退会のしやすさ

行政の面から考える「団体やサークルへの支援のあり方」

- サークルの主体性を考えた支援
- 研修会の開催
- 相談の体制
- 情報提供の体制、体験会の開催
- 「社会教育とは？」という基本となる勉強会の開催
- 学校区を利用した活用方法
- 今後の団体育成方法
- 「楽しむ」ことから「教育する」立場へ
- メリットの付与
- 手続きの簡素化
- 「知る機会」の大切さの提供

自由意見

- 地域の声をしっかりと聞く体制づくり
- 文化祭の一層の活性化（文化以外とのコラボレーション）
- 「スポンサー」の検討
- 「社会教育」という言葉が難しい（市独自の言葉を作るなどわかりやすい言葉での表現）

社会教育関係団体の育成に関して特に関わり合う課題

- ① **少子高齢化や核家族化、職住分離等が進行する中、市においても地域の人間関係が希薄になり、地域の活力が停滞傾向にある。**

このことは、地域で活動しているサークル・社会教育関係団体の活動にも同様なことがおきており、「新規加入者がいない」、「活動のマンネリ化」、「団体相互の横のつながりがない」などの課題に直面している。

また、地域で活動していた「子ども会」や「婦人会」、「青年団」など既存していた社会教育関係団体も解散してしまっている。

社会教育関係団体の育成に関して特に関わり合う課題

- ② 先の課題(①)の状況は、「地域の教育力」にも大きく影響し、地域で子どもの成長を支えることが難しくなっている。

しかしながら、地域に求められているものはここ近年多種多様化しており、「地域力」の向上を求められている現状もある。

(例)

文部科学省では、多くの幅広い層の地域住民、団体等が参画し目標を共有し「緩やかなネットワーク」を形成する「地域学校協働活動」の組織について、地域（市民）やサークル、社会教育関係団体に協力を求めている。

社会教育関係団体の育成に関して特に関わり合う課題

- ③ しかしながら、先の課題(①)の状況でも、まだまだ元気に活動しているサークルや社会教育関係団体は多く存在しており、地域に根差した活動も行っているが、その情報(活動内容)が市民には広く伝わっていない。

市民には「サークルに入りたい」「これからは地域で活動したい」と思っている人もいるが、そういった人に情報が伝わる手段が乏しく、加入に結びついていない。

一方で、一部のサークルや社会教育関係団体の中には、新規加入者の受け入れをしない閉鎖的な雰囲気があるところもあり、それも活動が広がらない一因にもなっている。

社会教育関係団体の育成に関して特に関わり合う課題

- ④ サークルや社会教育関係団体の中には、同じような悩み(課題)を持ちながら活動しているところも少なくない。

しかしながら、この悩みを団体間で共有できていない状況であり、この悩みを解決するために共同で何かを実施するという取り組みができていない。

また、行政(生涯学習課)、公民館(類似施設等)においても、サークル・社会教育関係団体が抱えている悩み(課題)を認識していながらも、支援策を講じられないでいる。

**今、なぜ「サークル活動」や「社会教育関係団体」が大切なのか
～その意義についてみんなで確認しよう～**

～ ワークショップのテーマ ～

- ① サークル活動の魅力とはなに？**
- ② サークルや社会教育関係団体が地域に存在する意義(メリット)とはなに？**
- ③ サークルや社会教育関係団体の活動が今よりさらに活発になることで、市民生活や地域にどのような効果が期待される？**